

第 42 回 SSN 勉強会

さつきが丘とこてはし犢橋町の歴史散策とクラフトづくり

山口由富子（市原市）

日 時：2009 年 1 月 19 日（月） 10 時～15 時 30 分 天気：晴れ

参加者：流山市、我孫子市、白井市、松戸市、船橋市、八千代市、四街道市、千葉市、
市原市などから 22 名

担当指導員：歴史散策（河添寿子） クラフト（後藤菊子、河添寿子）

その日は、夜来の雨があがり、まるで春を思わせるような、穏やかな一日でした。

歴史散策の舞台となったさつきが丘と犢橋町は千葉市花見川区にあり、クラフトのために使わせていただいたさつきが丘公民館とその周辺は、かつては花見川低地の田んぼや、畑、雑木林、松林などであり、里山の自然そのままの風景だったそうです。それを、なだらかにならして大規模な団地としたところへ、1972年、河添さんは移り住んできたそうです。河添さんがさつきが丘団地へ入居して、おおよそ36年。その年月がもたらした変貌と、はるか昔の縄文時代から脈々と受け継がれてきた先人の歴史を、具体的には1960年と1996年の地形図を見比べながら、散策してまわりました。

コースには、縄文後期から晩期にかけての犢橋貝塚（貝塚公園）や三社神社、庚申塚、馬頭観音など、史跡・遺跡が、たくさんありました。このように先人の足跡が多いということは、すなわち、ゆたかな自然がそこにあったという証拠でもあります。河添さんの説明は、そうした事象の説明だけにとどまらず、指導員としての心構えなども含めて、用意された詳細な資料とともに、含蓄の深い散策の場となりました。昼食は、穏やかな陽ざしのなか、立ち戻ってきた貝塚公園で、円陣になり、自己紹介をしながら楽しくとりました。その座を、河添さんが拾い集めた縄文土器のかけらや、泥めんこ（江戸時代から明治頃に流行った素焼きの子どものおもちゃ。江戸から検見川まで、船で運んだゴミを堆肥として畑に入れたが、そのゴミの中に混じていた）などが、昔をしのぶよすがとして回覧されました。

午後は、さつきが丘公民館で、待望のクラフト講座が。それは、すべてが自然を素材としたものであり、その特質を生かした造形が、じつに見事です。愛らしいのです。講座は、小学生を指導対象と意識したものですので、ナイフやキリなどの刃物の持ち方の指導はもちろんのこと、具体的には、何をどうつくるかの方向付けなども含めて、まさに手取り足取りの態勢でした。

クラフトは、こどもたちを自然に近づけるための有効な手法です。手を使い、考える工作過程はもちろんのこと、興味を持ったこどもたちの眼は、四季のなかで繰り返される自然の営みにも、眼を向けることになるでしょう。そうした意味で、今回の講座では、後藤さんと河添さんがご用意下さった材料の豊富さには、一同、感心すると同時に、頭が下がりました。その材料を使わせていただいた講座は、私たちにも、ある種の自覚と覚悟が必要であることも、気づかせてくれました。

自然を通して多くのことに気づき、自然保護の大切さを、多くの方々に気づいていただけるようご案内する指導員の役割を、反芻しながらの帰途となりました。

